

Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition

インストール補足説明書 for Express5800/56Xc

はじめに

本手順書は、Windows XP Professional x64 Edition for Express5800/56Xc 対応 NEC差分モジュールを使用して、「Microsoft® Windows XP Professional x64 Edition 日本語版」(以降、「Windows XP x64 Edition」と呼ぶ)をインストールする方法について記述しています。

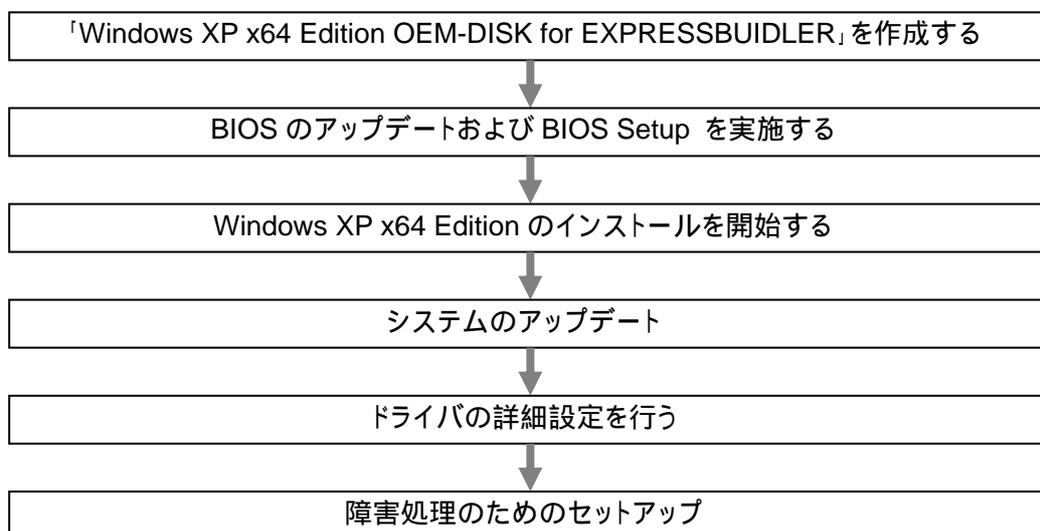
Windows XP x64 Editionをインストールする前に、必ず最後までお読みください。

注意 Windows XP Professional x64 Edition for Express5800/56Xc 対応 NEC 差分モジュールは、Express5800/56Xc 対応の専用モジュールです。他の装置ではご使用できません。

Windows XP x64 Edition インストール手順概略

Windows XP x64 Edition のインストール方法概略図を以下に示します。
Windows XP x64 Edition は既存の 32bit 版からのアップグレードはできません。

必ず**新規インストール**を実施してください。



Windows XP x64 Edition をインストールするための準備

インストールに必要なもの

Windows XP x64 Edition インストールを開始する前に、以下の媒体と手順書がそろっていることを確認してください。

- **Windows XP Professional x64 Edition for Express5800/56Xc 対応 NEC 差分モジュール**
(以降、「NEC 差分モジュール」と呼ぶ)

『NEC 8 番街』 <http://nec8.com>
[サポート情報] [ダウンロード(Express5800)]を参照し、入手してください。
- **Windows XP x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER**
(または 1.44MB フォーマットの 3.5 インチフロッピーディスク1枚)
作成方法は「Windows XP x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成”(本書)を参照してください。
- **Microsoft® Windows® XP x64 Edition インストール補足説明書 for Express5800/56Xc (本書)**
- **Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition 日本語版 (CD-ROM)**
別途ご購入が必要です。(以降、「Windows XP x64 Edition CD-ROM」と呼ぶ)
- Express5800 シリーズをお買い上げ時に添付されているもの
 - **EXPRESSBUILDER CD-ROM**
 - **ユーザーズガイド**
(EXPRESSBUILDER CD-ROM 中のマスターコントロールメニューから「オンラインドキュメント」を参照してください)

NEC 差分モジュールのダウンロードについて

「Windows XP x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成する場合や、「システムのアップデート」を行うときは、あらかじめ以下の手順で Express5800/56Xc 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。

- (1) 次の URL の OS 関連のページを参照し、Express5800/56Xc 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。

『NEC 8 番街』 <http://nec8.com>
[サポート情報] [ダウンロード(Express5800)]

- (2) モジュールをダウンロード後、ハードディスク上の任意のフォルダに展開する。
(例: C:¥TEMP)

注意 ダウンロード先のフォルダには、空白文字を含むフォルダは指定できません。

「Windows XP x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成

インストールを始める前に「Windows XP x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるフロッピーディスクが必要です。以下の手順にしたがって作成してください。

ヒント この装置用の「Windows XP x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成済みの場合は再度、作成する必要はありません。

次の手順で作成します。

- (1) 1.44MB フォーマット済み 3.5 インチの空フロッピーディスクを1枚用意する。
- (2) オペレーティングシステムを起動する。
- (3) NEC 差分モジュールをダウンロードする。
(「NEC 差分モジュールのダウンロードについて」(本書)参照)
- (4) フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクをセットする。
- (5) 以下のフォルダ配下の全てのファイルをセットしたフロッピーディスクにコピーしてください。

<展開先フォルダ名>¥WINNT¥OEMFD¥XPAMD64¥FD1

コピー終了後、
「Windows XP x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成は完了です。

作成した「Windows XP x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」は、ライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

注意事項

Windows XP x64 Edition をインストールする前に注意事項をよく読んでください。

ライセンス認証の手続きについて

バックアップCD-ROM(243-110442-371-A)を使用する場合、ライセンス認証済みの状態でインストールされます。その他のOS CD-ROMを使用する場合、Windows XP x64 Editionのライセンス認証の手続きが必要です。手続きを行う際に使用するプロダクトキーは、Windows XP x64 Editionに含まれるCOAラベルに記載されたものと一致させる必要があります。

- 重要** • インストールしてから 30 日以内にアクティベーションを行ってください。30 日間を過ぎると、システムがロックされる場合があります。
- COA ラベルは本体に貼り付けられている場合もあります。

NEC差分モジュールがサポートしているオプションボード

NEC差分モジュールでサポートしているオプションボードは、以下になります。

<SCSIモデル>

- NEC差分モジュールにてOSのインストールをサポートしているボード
 - N8103-80 ディスクアレイコントローラ (1ch)

ディスク構成について

ディスク領域に、「MAINTEN_P」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。

MO装置について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されない場合があります。ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

DAT等のメディアについて

セットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

BIOSのアップデート

Windows XP x64 Edition をインストールするためには、EXPRESSBUILDER CD-ROMを用いて、Windows XP x64 Edition用のBIOSのアップデートが必要な場合があります。BIOSが必要かどうかは、『NEC 8 番街』 <http://nec8.com> [サポート情報] [ダウンロード(Express5800)]を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。また、アップデート手順に関しては、各装置のBIOSダウンロード時の紹介文、およびダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ +
ハイバネーション用サイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	= 1700MB
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 1MB
ハイバネーション用サイズ	= 搭載メモリサイズ
アプリケーションサイズ	= 任意

重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のための推奨サイズです(ダンプファイル情報を格納するための十分な大きさのページングファイルサイズが必要です)。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 搭載メモリサイズが 2GB 以上の場合のダンプファイルサイズの最大は、「2048MB+1MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

$$1700\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 1\text{MB} + 512\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ} \\ = 3493\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

- (1) 「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」を設定する。
- (2) 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラーボリュームを作成してください。ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除、および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

1 Windows XP x64 Edition のインストール

ここでは、**Windows XP x64 Edition** の新規インストール方法について説明します。

1. システムの電源を ON にする。

重要 Windows XP x64 Edition 用の BIOS のアップデートが必要な場合は、アップデートを行ってください。BIOS が必要かどうかは、『NEC 8 番街』<http://nec8.com> [サポート情報] [ダウンロード (Express5800)] を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。

ディスプレイ装置の画面に POST (Power On Self-Test) の実行内容が表示されます。
(「NEC」ロゴが表示された場合は <Esc> キーを押してください。)
しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> to enter SETUP

2. <F2> キーを押し、BIOS Setup メニューの「Advanced」 「Installed O/S」を「PnP O/S」に設定する。設定方法は機種によって異なりますので、詳しくは装置の BIOS ダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。
3. BIOS Setup メニューの「Exit」 「Save Changes & Exit」を選択し、[Yes]を選択してシステムを再起動させる。
4. Windows XP x64 Edition CD-ROM を光ディスクドライブにセットしたら、リセットする (<Ctrl>+<Alt>+ キーを押す) が、電源を OFF/ON してシステムを再起動する。

重要 ハードディスク上に起動可能な OS がインストール済みの場合は、画面上部に「Press any key to boot from CD...」が表示されている間に <Enter> キーを押してください。起動可能な OS が存在しない場合は不要です。

CD-ROM からシステムが起動します。

Windows XP x64 Edition のセットアップ画面が表示されます。
画面が表示されなかった場合は、<Enter> キーが正しく押されていません。
システムの電源を ON し直してから始めてください。

5. ディスクアレイコントローラ (N8103-80) が取り付けられている場合は、画面下部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に <F6> キーを押す。

ヒント

- <F6> キーを押しても、このときには画面上には何の変化もあわれません。
- オプションのディスクアレイコントローラを使用している場合は、ボードに添付されているマニュアルを参照してください。

<F6> キーを押す必要がない場合は、これ以降の手順は必要ありません。
画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細については「ファーストステップガイド」を参照してください。

6. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage devices.

以下のメッセージが表示されます。

Please insert the disk labeled
Manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:
* Press ENTER when ready.

7. Windows XP x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSI アダプタのリストが表示されます。

8. ディスクアレイコントローラ(N8103-80)を使用の場合、
[MegaRAID SCSI 320-1 RAID Controller Driver] を選択し、<Enter>キーを押す。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。

ヒント SCSI アダプタリストよりドライバを選択した場合、ロゴテストに合格していない旨のポップアップが出る場合がありますが、システム上問題ありません。[OK]をクリックし処理を継続してください。

重要 セットアップの途中で、Windows XP x64 Edition をインストールするパーティションを設定する画面が表示されます。このとき表示される先頭にある 55MB の領域は、Express5800 シリーズ特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションです。この領域の削除は推奨しませんが、55MBの領域を確保させたくない場合は、「D = パーティションの削除」で削除してください。

ファイルのコピー後、自動的に再起動します。

ヒント フロッピーディスクおよび CD-ROM を取り出す必要はありません。ただし、フロッピーディスクを取り出さない場合は、CD-ROM も取り出さないでください。

以降は、画面の指示にしたがってセットアップしてください。

9. Windows XP x64 Edition インストール終了後、「システム管理者 (例: Administrator)」の権限を持ったユーザーでログオンしてください。
10. **システムのアップデート**を参照して地域情報レジストリ書き込みファイルの実行とシステムのアップデートを行う。(「2. システムのアップデート」(本書)を参照)
11. **ドライバのインストールと詳細設定**を参照してドライバのインストールと詳細設定をする。(「3. ドライバのインストールと詳細設定」(本書)を参照)

2 システムのアップデート

Windows XP x64 Edition のインストール後、必ず以下の手順で地域情報レジストリ書き込みファイル(JAPAN.REG)の実行と、システムのアップデートを行ってください。

NEC 差分モジュールをダウンロードしていない場合は、「Windows XP x64 Edition をインストールするための準備」の「NEC 差分モジュールのダウンロード」を参照し、ダウンロードしてください。

重要 次の場合も必ずシステムのアップデートをしてください。

- システム構成を変更した場合(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合。システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は[いいえ]をクリックし、システムをアップデートしてください。)
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
- 本装置の BIOS セットアップユーティリティを使って「Hyper-Threading Technology」の設定を変更した場合(プロセッサに関する設定項目です。)

1. 管理者権限のあるアカウント(administrator 等)で、システムにログオンする。
2. **JAPAN.REG** を実行する。

書き込み確認のメッセージが表示されるので[はい]を選択する。

3. <展開先フォルダ名>¥WINNT¥XPAMD64¥UPDATE.VBE を実行する。
セットアップメッセージが表示されます。

画面のメッセージにしたがって作業を進め、[コンピュータの再起動] ダイアログボックスが表示されます。

4. [コンピュータの再起動]をクリックしてシステムを再起動させる。

3 ドライバのインストールと詳細設定

本装置標準装備の各種ドライバのインストールとセットアップを行います。
ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはドライバに添付の説明書を参照してください。

ネットワークアダプタの詳細設定

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplex モードの設定が必要です。以下の手順に従って設定してください。
ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。
自動的にインストールされます。

サービスの追加で、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが、送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、ユーザーズガイドを参照してください。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

1. 「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[コントロール パネル] [ネットワーク接続] [ローカル エリア接続]をクリックする。
[プロパティ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[設定] [ネットワーク接続]をクリックする。
[ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、メニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成]をクリックする。
[Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernetのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細設定] タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。
4. [Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernetのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

ネットワークドライバ

ネットワークドライバをインストールする前に、Windows XP x64 Edition の修正モジュールを適用する必要があります。この修正モジュールを適用せずにネットワークドライバを起動させると、イベントログの参照ができなくなることがあります。

発生条件 : Gigabit Ethernet Controllerを10Mbpsの回線速度で接続したとき

対象装置 : Express5800/56Xc 標準搭載 Gigabit Ethernet
およびN8104-111/103/112

修正モジュールの入手は、弊社ファーストコンタクトセンターまでご連絡ください。

ファーストコンタクトセンター : TEL 03 - 3455 - 5800 受付時間 9:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 17:00 月曜日 ~ 金曜日(祝日を除く)
--

本体装置標準のネットワークおよびオプションのネットワークボード(N8104-111/103/112)用ドライバは、OSインストール後に『NEC 8 番街』<http://nec8.com> [サポート情報] [ダウンロード(Express5800)]からダウンロードしたモジュールを任意のフォルダに解凍してください。(例:C:\TEMP)

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [ネットワーク アダプタ] [Intel(R) PRO/1000 ~] または [Intel(R) PRO/100 ~] をダブルクリックする。ダイアログが表示されます。
[?その他のデバイス] [?イーサネットコントローラ] がある場合は [?イーサネットコントローラ]をダブルクリックしてください。
3. [ドライバ] タブを選択し、[ドライバの更新] ボタンをクリックする。
[ハードウェアの更新ウィザード] が表示されます。
4. [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [次の場所で最適のドライバを検索する] を選択し、[次の場所を含める] にチェックを入れ、「Express5800対応モジュール」のフォルダを指定し、[次へ] をクリックする。

Express5800/56Xc標準搭載Gigabit Ethernet

および N8104-103/112 の場合

[(例:C:\TEMP) \NS1\PRO1000\WS03_32E]

N8104-111 の場合

[(例:C:\TEMP) \NS1\PRO100\WS03_32E]

ドライバの検索が開始され、検索後インストールが始まります。

6. [ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。[完了]ボタンをクリックする。

以上でドライバのインストールは完了です。

複数のネットワークコントローラが存在する場合は、各々実行してください。

グラフィックスアクセラレータドライバ

本体またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストールしてください。

サウンドドライバ

サウンドドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

USB2.0 ドライバ

USB2.0ドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます。

ディスクアレイコントローラ (N8103-80) を追加接続する場合

システムにディスクアレイコントローラ(N8103-80)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされますが、その後、ドライバのアップデートが必要です。以下の手順でドライバをインストールしてください。

1. [スタートメニュー] - [コントロールパネル] - [管理ツール] - [コンピュータの管理]から[デバイスマネージャ]を起動する。
2. デバイスマネージャで不明なデバイスとして登録されているRAIDコントローラをダブルクリックする。
3. [ドライバの更新]をクリックする。
4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選択し、[次へ]をクリックする。
5. 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択し、[リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索]チェックボックスをチェックする。
6. フロッピーディスクドライブに「Windows XP x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。

以上でドライバのインストールは完了です。
画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

SCSIコントローラ (N8103-95) を追加接続する場合

システムにSCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

- 重要**
- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
 - ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル]ウィンドウから[パフォーマンスとメンテナンス]をクリックする。

ヒント クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル]から直接[システム]をクリックしてください。

3. [システム]をクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [詳細設定]タブをクリックする。
5. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。
6. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK]をクリックする。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>
D:¥MEMORY.DMP

ヒント Windows XP Professional x64 Edition の場合

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+1MB 以上(メモリサイズが 2GB を超える場合は、2048MB+1MB 以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

7. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。
8. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。
9. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。
10. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。

重要

- 必ず OS パーティションに上記のサイズで作成してください。STOP エラーが発生したときに完全なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取するために必要です。ページングファイルの[初期サイズ]を「推奨」値未満に設定すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があります。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(本書)」を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。
- 障害発生時に備えて、事前に DUMP スイッチを押して正常にメモリダンプの採取ができることを確認しておくことをお勧めします。

11. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

ヒント ワトソン博士の設定は、購入時および再セットアップ時に自動的に設定されています。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。
ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。
3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。
「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

チェック ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

ヒント 「クラッシュダンプファイル」は Windows Debugger で読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ダンプシンボルテーブル
- すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- 既存のログファイルに追加
- クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

トラブルシューティング

Express5800 シリーズが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容にしたがって Express5800 シリーズをチェックしてください。

リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理にしたがってください。それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

なお、ここに上げている症状は Windows XP x64 Edition にて新たに発生するトラブルシューティングです。その他の症状につきましては、お手持ちのユーザーズガイドを参照してください。



Windows XP Professional x64 Edition のインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース	: LoadPerf
種類	: エラー
イベント ID	: 3009
説明	: サービス C:\WINDOWS\system32\ipsecprf.ini (C:\WINDOWS\system32\ipsecprf.ini) のパフォーマンスカウンタの文字列をインストールできませんでした。 エラー コードはデータ セクションの最初の DWORD です。

システム運用上、問題ありません。



Windows XP Professional x64 Edition のインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース	: DCOM
種類	: エラー
イベント ID	: 10016
説明	: コンピュータ既定 権限の設定では、CLSID {555F3418-D99E-4E51-800A-6E89CFD8B1D7} をもつ COM サーバーアプリケーションに対するローカル アクティブ化アクセス許可をユーザー NT AUTHORITY\LOCAL SERVICE SID (S-1-5-19) に与えることはできません。このセキュリティのアクセス許可は、コンポーネント サービス管理ツールを使って変更できます。

システム運用上、問題ありません。